

頌栄

宣教150周年感謝号



「頌栄」と名付けられた教会

牧師 清弘 剛生

今年は頌栄教会にとって、宣教150周年という節目の年です。それは、頌栄教会の前身の一つである牛込メソジスト教会が宣教を開始してからの150年にあたります。カナダ・メソジスト教会から派遣されたジョージ・カクラン宣教師が開いた牛込講義所が、その始まりです。しかし、今日の150周年は、カクラン宣教師の宣教開始から一本の線で結ばれているわけではありませぬ。なぜなら、牛込メソジスト教会は一度散らされ、宣教が中断した時期があったからです。

時は第二次世界大戦末期の1945年5月25日、東京は大空襲に見舞われました。当

時の真鍋頼一牧師一家も被災し、教会堂と牧師館は全焼しました。翌々日は日曜日でしたが、教会は焼け跡で最後の礼拝を守り、散らされていききました。この時、牛込教会の宣教の歴史は終わったかのように見えたことでしょう。

しかし、主はその14年前に次の道を備えておられたのです。1931年4月、長谷川朝吉牧師による開拓で、世田谷メソジスト教会(後の「池ノ上教会」)が誕生しました。そして、戦火を耐え抜いた池ノ上教会に、主のご計画により第五代牧師として真鍋頼一師が遣わされ、さらに牛込教会の人々がそこに集められ始めたのです。かくして、牛込教会と

池ノ上教会はそれぞれの歴史を共有し、合同して一つの教会となりました。

新しく一つとなった教会は、当初「美以教会」(「美以」はメソジストの意)と名乗りましたが、最終的に「頌栄教会」と改名されました。その頃、戦争の傷跡がまだまだ深く残る中、教会員の生活もなお多くの困難を抱えていたであろうに、それでもなお、「頌栄」、すなわち「主の栄光をほめたたえる」という名のもとに皆が一つになろうとしたことに、私は深い感動を覚えます。

そして今、そのような人々の後継者として、私たちがここにいます。宣教一五〇周年を迎え、心からの感謝をささげ、主の御名をたたえ、新たにここから歩み出そうではありませんか。